

## 「シンガポールで広がった視野と可能性」 Gさん

私がこのシンガポール研修に参加した理由は、将来海外で働きたいという夢があり、また大学での留学を視野に入れて、進路の指針にしたかったからです。さらに、現地の人々とのディスカッションや観光、ゲストスピーカーの方々のお話など、充実したプログラムに強く魅力を感じたからです。

このプログラムを通じて最も学んだことは、臨機応変に対応する力と、それを伝えるための英語力や語彙力の重要性です。特にそれを実感したのは、現地の学生たちとのグループディスカッションやプレゼンテーションの際でした。ディスカッションの内容は主にリーダーシップやSDGsについてで、日本語で答えるのも難しいテーマでした。ディスカッションの後、グループで行ったプレゼンテーションでは、リーダーたちから即興で質問を英語で投げかけられました。このような状況下で即座に返答をする力が求められることに気づき、自分たちに必要なスキルだと痛感しました。

また、ゲストスピーカーの方々からも学びを得ました。それは「機会があれば何でも掴むこと」です。この考え方は、全てのゲストスピーカーの方々のお話に共通していました。彼らの説得力ある経験談を通して、まず行動を起こし一歩を踏み出すことの重要性を感じました。

研修中、特に困難だったのは、シングリッシュを聞き取ることでした。現地の方々には中国語やマレー語の発音の影響を受けたシングリッシュを話すため、理解する前にまず聞き取ることに精一杯でした。それでも、辛さよりも楽しさが勝っていました。英語で会話をしている時の自分はとても生き生きとしていたと感じたし、他の研修参加者との関わりも非常に楽しかったです。同学年の参加者とは面識があったものの、1年生とはほとんど関わりがありませんでした。しかし、グループ活動や寮での生活を通じて1年生と交流する機会が増えました。寮では皆で英語だけを使って会話するゲームをしたり、最終日には一緒にご飯を食べたりして、より仲良くなることができました。新しい人々との出会いは新鮮で、とても嬉しかったです。

私は研修の前から積極的に現地の人々に話しかけることを目標としていましたが、ほとんどが日常会話に留まっていました。研修中の振り返りの時間に、Y先生が「インターネットからは得られない生の話を現地の人々から聞くことが大切だ」と言っていたことを受け、もっと現地での生活や経験について聞くよう意識しました。また、グループのメンバーから「グループリーダーの話が理解できなかった時に日本語に翻訳してくれてありがとう」と感謝されたことで自信がつけました。それでも聞き取れなかったり知らなかったりする単語が多くあったため、さらに英語を勉強しようという意欲が高まりました。この経験が英語学習へのモチベーションを上げました。

今後の海外研修希望者に伝えたいのは、与えられた機会を絶対に無駄にせず、いかに自分でその価値を高めるかが重要だということです。また、間違いを恐れずに発言し、分からないことはすぐに質問することが大切です。プログラムの内容だけでなく、他の参加者からも学び得ることが多くあります。さらに、研修は自分を見つめ直す良い機会にもなります。私はこの研修を通じて、物事に対する視野を広く持ち、どんな場所や状況においても対応できる柔軟性を持つ人間になれるよう、努力していきたいと考えています。